

令和6年度 国富町立本庄小学校 学校関係者評価書

4段階評価

4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

<u>学校経営ビジョン</u>	<u>(たくましく生きる本庄小の子ども) 知・徳・体とともに諒順のとれた実践力のある児童の育成 (コンプライアンス意識の徹底) 児童・保護者・地域に信頼される学校づくり</u> <u>学校の教育目標：豊かな心をもち、たくましく生きる本庄小の子どもの育成</u>	
-----------------	---	--

※自己評価は職員・保護者・児童の評価

●は課題・次年度への方策等

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知 育	<p>■目標 学力向上と読書活動の推進（考える子）</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>1 基本的な学習習慣の指導と主題研究と関連させた日々の授業改善による学力向上</p> <p>2 各種関係機関と連携した特別支援体制の充実</p> <p>3 授業との関連、読書環境の整備及び読み聞かせボランティアと連携した読書活動の推進</p>	1	○タブレットを常に手元に置くことで、自分が必要なときにスムーズに活用することができるようとした。 ○復習の際に、タブレットでナビマ（AI ドリル）を使い、自分の苦手とする学習内容を選び解答することで個別最適な学習が実践できている。 ○主題研究における相互参観授業の設定や中部教育事務所のプラッシュアップサポートを年3回受けて授業改善（5名の職員）に取り組んだ。	3.1	3.1	● 児童自身の自己評価が高いで、児童達はタブレット等の活用による学習実験ができると推察できるが、それが学力向上に反映されているかどうかは不明である。 ○ タブレット・AIなどの活用で、誰もでも学習に興味をもち、身近に感じられるのがいいことだと思います。 ○ 児童のICT使用スキル向上、授業効率化は良い効果が出ていると思う。「書く」「手を使う」等、活動の基礎を大事にする小学校で実施すべきことが増え、負担感などならぬよう活用されることを期待します。 ○ 参観授業では、学年ごとにタブレットを活用し、学習に取り組む様子が多く見られた。個別に支援をされていることで、自ら学ぶ意欲に付いていると思う。
		2	○学校での学習や生活への困り感をもつ児童への関わりを積極的に行い、保護者との相談の上、支援の在り方を関係職員で協議・推進してきた。			○ 児童の自己評価が高い、日々の学校生活の中で困り感のある児童への関わりが児童の目にもより充実していると映っていると思われる。 ○ 全児童に寄り添う支援を進めます。 ○ 学級担任だけでなく、複数担任することが多かつてきただけでより進めています。 ○ 保護者との教育連携は、積極的に取り組んでほしい。
		3	○読み聞かせボランティアによる読み聞かせを実施していただいた。（1年生及び休休みの希望者） ○多読賞の表彰と校内放送による図書室利用の状況のお知らせを行った。 ●個人での貸出数の差がある。（1月現在：貸出100冊以上48名）			● 読み聞かせに関しては、諸々の関係で回数も減り、児童が本で遊ぶ機会は、残念ながら減少しているように思われる。 ● タブレット・スマート等で苦労していると思っています。 ○ 読み聞かせボランティアが関わる機会は縮小したが継続してほしい。ボランティア側のスキルアップも来年度は意識していきたいです。 ○ 「気に入った本の紹介」という観点で豊かでなく質的方面へのアプローチもあるかと思う。
徳 育	<p>■目標 思いやりの心と基本的な生活習慣を身に付けた児童の育成（親切な子）</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>1 主題研究と関連させた道徳授業改善</p> <p>2 地域・家庭と連携した規範意識の醸成及び人権教育の推進（あいさつ、返事、履き物の整頓、マナー）</p> <p>3 定期的な児童アンケート及び教育相談の実施と各種関係機関と連携した教育相談体制の充実（せんさんん会議、いじめ防止方針の徹底、家庭・地域との連携）</p>	1	○スクールワイド PBS の取組を実践したこと、児童が友達のよさを実感することができた。 ○全校的に校内での会釈がよくできていた。 ●友達を思いやる言葉遣いや場に応じた無言の徹底はまだ十分ではない。	3.1	3.0	○ 地区内で出会う児童達はよく挨拶をしてくれる。時折、仲良く遊ぶ姿も見受けられる。 ● 思いやの心、言葉遣いがいいと思うので、先生（大人）がお手本となる行動をとってほしいです。 ○ 廊下等でされ違うときこそあいさつをしてくれる児童は多いと感じます。 ○ 参観授業で人権教育の授業を取り入れることは、保護者の人権教育に対する理解を図る上でとても良いことだと思います。
		2	○6月の参観日ににおいて、全校一斉の人権教育の授業（道徳科または学級活動）を実施した。 ○6年学年児童を中心に、始業前の校庭の清掃を継続して行った。			● 体育の危険管理となるが、児童だけでで遊びとき、用水路沿ひや高さのある土手など児童だけでは危険を感じるところもある。自然の中で遊び方もいつてもしながら危険回避の力も身に付けてほしい。 ○ 部屋の整理などもできるようになります。そういう機会をちょくちょくやってもらいたいです。 ○ 上級生がロールモデルとなり、尊敬される行動をとるというのを運動会でも伝わってきました。 ○ 第6学年を中心とした朝の掃除活動は、他学年によると競争をとることになると思ってるので、今後も継続してほしい。
		3	○毎月「心のアンケート」及び担任との教育相談を全児童対象に行い、いじめの早期発見に努めた。 ○いじめ不登校対策委員会で、各学級の児童の様子を共有した。必要に応じてケース会議を設け、細胞的対応の方針を確認した。			○ 児童の自己評価が高い、学校外の測定児童の児童の精神にも影響され安心できる学校生活につながっていると思われる。 ● 日常勤い子どもたちの振る舞いに気をつけて下さい。先生も保護者も ○ いじめの早期発見・認められること、「音で見守っている」ことが大切にも思っています。総務的な面も共存している安心感につながると思います。 ○ 標準的なケース会議は、開采児童に豊かが実感されるとともに、保護者への理解を図るうえで大切だと思う。
体 育	<p>■目標 体力・健康づくりの実践と食育及び安全教育の推進（がんばる子）</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>1 体力向上プランの年間指導計画への位置付けと振り返り（PDCA）</p> <p>2 保護者と連携した、保健指導及び食に関する指導の推進</p> <p>3 危機管理マニュアルの確実な周知と安全指導・安全点検の徹底</p>	1	○昨年度よりも体力テストの測定結果が改善した。 ○全国平均を下回った項目を全職員で認識し、体育授業での取組例を示し、全学年で取り組み始めている。	3.2	3.1	○ 児童の自己評価が高く、自分自身の評価と指標による体力の向上が可能できているのではないかと思われる。 ○ 手筋充実と全職員で取り組んでいることは評らししいと思います。成長してほしいです。 ○ 運動スコアにより体を動かすことそれ自体を知る機会が学校には求められていると思います。また運動競技にも関わっています。 ○ 朝練体操は日常的な運動の実験が、体力向上に繋がっていると見れるので、今後も推奨してほしい。
		2	○栄養教諭・町役場・地域の方の指導・支援により全学年が食育の取組を実践できた。 ●健診後の受診勧告を定期的に行い、長期休業における治療を保護者に依頼している。（歯科治療率48.8%）			○ 児童の自己評価が高く、児童もしっかり取り組んでいると認識できる充実した指導ができていると思われる。 ○ 家庭での運動習慣づけができないかもしれません。 ○ 食材の生産地である国産で育てて栽培したこと、地域の良さを知ることでもあり、幸せなことです。 ● 関心度は高いものの、英語力がありませぬ。 ● 関心度は、保護者の運動競技として、早期治療の大切さについて文書や写真の際で理解を図ってほしい。
		3	○これまでの反省を活かし、よりスマーズな引き渡し訓練の実践を行うことができた。今後も保護者との連携を図る。 ○毎月の安全点検を実施し、危険箇所について随時修繕している。			○ 児童の自己評価が高く、いろんな訓練を取り組んでいることを実感できると思われる。ただし、登下校時の車への危険箇所修繕は、時折いつもする機会があるので、気を抜かれず継続することが大事だとと思われる。 ● 安全点検は、保護者の運動競技として、早期治療の大切さについて文書や写真の際で理解を図ってほしい。 ○ 児童の自己評価が高く、いろいろな訓練を取り組んでいることを実感できると思われる。ただし、登下校時の車への危険箇所修繕は、時折いつもする機会があるので、気を抜かれず継続することが大事だとと思われる。 ● 災害が多くなっているので、徹底指導を望みます。 ○ より実用的な訓練を行われるようになってよかったです。保護者も児童も、いつの日かが必要になった時に行動できる環境になることを期待します。 ○ 学校外での行動について、危険箇所点検や移動住民の声を生かすなどして、登下校時の安全意識を高めてほしい。

次年度の方向性についての校長所見	○中部教育事務所や国富町教育委員会の指導、職員による校外・オンラインによる研修成果を全職員で共有し授業改善を継続する。 ○運動の日常化につながる体育学習を実践し、保護者とともに健康な生活に向けた取組を実践する。 ○社会構造の変化に応じた学校行事や教育活動を模索し、さまざまな場でのICTの活用を推進する。
------------------	--

